

[講演要旨]

# 安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理 (その6) 西三河全域における文献調査

都築充雄 (名古屋大学減災連携研究センター)

## §1. はじめに

本研究は、寺院は広く地域に分布しており、建物被害に関する情報は建築構造的特徴を踏まえれば被害状況から地震の揺れをある程度統一された条件で対比することが出来ることに着目して、安政東海地震における愛知県の寺院の被害状況をそのまま整理・提示することを目的としている。被害程度は、寺院の被害様相を寺院本堂の被害で代表させ、無被害または軽微な補修により継続使用可能な「無被害・小破」、土壁に大きなひび割れが生じる程度の被害で補修すれば使用可能な「中破」、大きな残留変形が生じ人命は保護されるも使用困難である「大破」および「倒壊」に4分類している。

これまで、南海トラフ地震で大きな被害が想定されている地域である西三河南部に位置する、碧南市・西尾市の寺院被害について調査報告してきた。本稿では、より広域における南海トラフ地震被害像を面的に理解するために、西三河全域における寺院被害程度を把握することを目的に実施した文献調査結果を報告する。

## §2. 西三河全域における文献調査

西三河全域における文献調査は、碧南市・西尾市を除く岡崎市・豊田市・安城市・刈谷市・高浜市・知立市・みよし市・幸田町における、新旧市町村史を始めとする地域史料を対象に相当量の文献を調査した。

## §3. 被害の直接記述があった寺院

調査の結果、文献に寺院被害が直接記述されている事例は非常に少なく、以下の16件であった。

### ① 刈谷市・「三河における安政東海地震」

郷土史研究文献「三河地域史研究第6号」(昭和63年11月13日、三河地域史研究会)に掲載された論文、村瀬典章「三河における安政東海地震」には、「御触状留帳」「刈谷町庄屋留帳」などの地域史料に基づき、刈谷市内の寺院被害について整理してまとめられている。

その記述から、「元刈谷村崇福寺本堂倒→倒壊」「刈谷町大悟寺本堂皆倒→倒壊」「刈谷町十念寺破損→中破」「刈谷町利勝寺破損→中破」「刈谷町修光寺大破→大破」「高津波村金勝寺倒→倒壊」「小垣江村観音寺本堂大破→大破」「今岡村乗願寺大破→大破」「築地村神宮寺破損→中破」「東照寺門倒→中破」とした。

### ② 刈谷市・長善寺

大浜陣屋日記(沼津市明治史料館蔵)によれば、「十一月七日 曇り 一 右同村(西境村)長善寺 境内中破届書差出ス」とあり、境内中の破損はあったも

のの本堂については「無被害・小破」とした。

### ③ 刈谷市・楞嚴寺

大浜陣屋日記(沼津市明治史料館蔵)によれば、「十一月廿九日 晴風 一 刈谷楞嚴寺、使僧ヲ以届出候者、此度大地震ニ付、花瓶壺并御霊膳椀、御廟所玉垣、石灯籠一対、破損致し候趣届書差出」とあり、「無被害・小破」とした。

### ④ 豊田市・養寿寺

大浜陣屋日記(沼津市明治史料館蔵)によれば、「十一月九日 曇り 一 同村(花園村)養寿寺境内建家破損所有之旨、届書さし出ス」とあり、建家破損が報告されているため、「中破」とした。

### ⑤ 岡崎市・光善寺

大浜陣屋日記(沼津市明治史料館蔵)によれば、「十一月八日 晴 一 新同村光善寺、境内建家之分破損之届書さし出ス」とあり、建家破損が報告されているため、「中破」とした。

### ⑥ 岡崎市・勝蓮寺

「大宝年代記覚」(西尾市岩瀬文庫写蔵)に、「照蓮寺御宮が半こわれ 先家をしたおれ 本堂南角柱ねちをれ 此寺半こわれ」とあり、変形量が大きいことから「大破」とであると推定される。

### ⑦ 岡崎市・総持尼寺

「新編岡崎市史 20 総集編」によれば、「安政の大地震で矢作橋の橋柱が傾き、総持尼寺が倒壊、死者多数」とあり、「倒壊」とした。

## §4. 再建・大改修の記録からの被害の推定

前報までに、地域の信仰対象である寺院においては、大破や倒壊の被害を受けた場合、再建には相当な労力と年月を要し、地域に何かしらの記録が残ると考えられることから、安政東海地震における寺院の被害程度を安政期以降の再建や大改修の記録から推定する方法を提案した。

例えば、「愛知県歴史全集寺院編,S61」によれば、安城市・宝林寺について、「弘化2年(1845)落成した本堂は昭和20年の三河大地震で倒壊してしまう」とあり、安政東海地震においては「無被害・小破」とであると推定できる。

今後はこのような調査を続けて行くが、一方で、寺院被害が直接記述されている文献が非常に少ないことは、この地域では大規模改修を必要とするような寺院被害はほとんどなかったとも考えられる。

また、文献に被害記述された岡崎市の勝蓮寺・総持尼寺は矢作川沿いの寺院であり、被害は地盤条件が影響した可能性が高い。今後はこのような視点からも調査を進めることとしたい。